

昭和初期の山口高等商業学校官舎の建築について

坪 郷 英 彦

1. はじめに

山口大学には大正末期から昭和初期に建てられた官舎が平成20年時点2棟存続していた。独立行政法人化直前の平成15年には5棟存続していたが、その後3棟が取り壊され、更地の状態で売却された。筆者は取り壊された3棟のうち2棟を調査する機会に恵まれ、並行して建設時代の山口高等商業学校の書類を閲覧し、建設時の図面が含まれる建設当時の様子を知ることができた。ここでは大正末期昭和初期に官舎としてどのような建築が作られたかの資料紹介を行う。

近年、都市、農村のいずれにおいても景観に対する関心が高まりつつある。都市では伝統的建造物群の文化財指定や建造物の登録文化財制度により、町並みや個別の建物が保存活用されるようになってきた。さらに、文化財となった建造物がかつてのように静態的保存ではなく、使いながら保存されるようになり、都市の中では都市の時間を蓄積した潤いの場として見直されるようになってきている。

山口大学は山口市吉田地区に位置する前は現在図書館や美術館が立地する亀山周辺にあり、旧市街の中心に位置していた。市民と教官学生が親しく接する町であり、学都山口という言葉もあったとされる。新制山口大学は昭和24年に山口高等学校、山口高等商業学校（山口経済専門学校）、山口青年師範学校、山口師範学校、宇部工業専門学校、山口獣医畜産専門学校が一緒になってつくられた。いくつかの学校は語学教育のため外国人教員を備用しており、そのための官舎を用意していた。建物の多くは洋館であり、山口市街地の中では暖炉の煙突を持つ特徴的な景観を形作っていた。近代建築は日本が西洋化をどのように日本の建築様式の中に取り込んでいったかの過程を教えてくれる。また、昭和初期の山口町の景観を形作るものとして特徴的な存在であったととらえることができる。その図的資料、関連するデータを残すことは意味のあることと考える。

2. 山口高等商業学校資料に記載された傭外国人宿舎記事

山口大学が保有する山口高等商業学校資料の中で大正15年度、昭和2年度、昭和3年度国有財産綴（以下、綴と略する）に傭外国人宿舎三号と傭外国人宿舎四号の建設にあたっての書類が綴られている。この2棟の建物は昭和24年に山口大学に移管されて、経済学部2号宿舎、経済学部3号宿舎と名称が変更された。

大正15年綴には6月24日付けの会計課長から文部大臣あての文書「備外国人宿舎名称等ニ関スル通牒」から始まって文部大臣宛の報告文書「備外国人官舎（二）敷地買収済報告」まで26件の関連文書がある。その多くは建設用地の決定のための広島出張所及び本省とのやりとりの内容である。備外国人宿舎二号と備外国人宿舎三号は最初は字岩崎東にあった備外国人宿舎壱号の敷地内に建設することで進められたが、敷地が新しく2棟建てるには狭いことを理由に備外国人宿舎二号だけが建設されることになる。結局備外国人宿舎二号はすでに大正15年2月に建設されていた備外国人宿舎壱号のとなりに、昭和2年3月30日に建設された。備外国人宿舎三号は最初建設用地の候補がいろいろ検討されたが、借地契約を結びその土地に建設することとなった。竣工報告は昭和2年6月1日付けで文部大臣宛に行われている。管理用書類には昭和3年3月30日竣工と記載されている。また、当初借用地であったものを昭和24年9月に所有者から購入したことが記載されている。

備外国人宿舎四号の建設は昭和2年に始まり、その設計監督を山口県に委託し、昭和2年12月7日付けで山口県知事より県土木課技術員が付属建物新設工事設計監督することを承諾する文書が届いている。昭和3年3月31日に竣工しているが、竣工検査は山口県技手山本豊彦が行っている。地元で設計がなされた為か詳細な施工図を含めて図面が残されている。

文部省の建築課による設計であり、備外国人宿舎二号と三号は図面の左右を裏返した形の同じ間取りである。備外国人宿舎四号は設計監理が山口県土木課に委託されたため、これらと間取りは全く異なる。

綴に記載された宿舎の居住者を表1にまとめた。山口高等商業学校の昭和15年から昭和3年の期間だけであるが、官舎は備外国人宿舎が壱号から四号までの4棟あり、他に教師館が2棟あった。外国人教師は1年から3年の期間これらの宿舎に居住していたことがわかる。備外国人宿舎壱号と二号は字岩崎東、教師館は学校敷地内の中河原梅本にあった。この表には掲げてないが、もう1棟の教師館（一）には山口高等商業学校長が居住していた。

3. 建設された官舎

表2は山口大学管財課が管理する施設管理用書類に記載された官舎と山口高等商業学校の外国人向けに建てられた官舎で山口大学に引き継がれなかったものも含めてまとめたものである。その所在地を図1に示した。昭和3年までの資料であるが、山口高等商業学校時代には教師館2棟と備外国人官舎4棟あったことがわかる。この中で備外国人官舎2棟が引き継がれ、経済学部職員宿舎（二）、（三）となったことになる。

これに加えて山口高等学校から1棟が引き継がれ文理学部職員宿舎（一）となっている。また、山口市から移管された2棟は、経済学部職員宿舎六号と七号となっている。この建物は和風平屋建ての建物で、今回調査は行っていない。

取り壊し前に文理学部職員宿舎（一）と経済学部職員宿舎（三）の実測調査と経済学部職員宿舎（二）の写真撮影を行うことができた。山口大学保有の建築一件書類は大正15年、昭和2年、昭和3年の綴りであり傭外国人宿舎建設のための用地取得から建物建築までを知ることができる。具体的には傭外国人官舎二号、傭外国人官舎三号（移管して経済学部職員宿舎（二）及び傭外国人官舎四号（移管して経済学部職員宿舎（三））の建設の詳細を知ることができる。

3-1 文理学部職員宿舎（一）

文理学部職員宿舎（一）は大正14年3月の建築で山口高等学校の宿舎として建てられたものである。昭和24年に山口大学文理学部へ移管されている。所在地は山口市天花、雪舟の居宅史跡の近くに位置する。木造2階建て、スレート瓦葺き、横羽目板貼りの壁、暖炉煙突を外観上の特徴とする洋館建ての建物である（写真1）。図2-1、2-2は平成16年実測調査を行った伊藤則子氏（元山口県立大学）による平面図と立断面図である。建物は道路沿いの敷地の中央にほぼ南面して立つ。正面玄関を入ると階段室があり、左に広いリビングが広がり、右には4畳半の和室が位置する。建設時の図面が無いのではっきりしないが使用人の部屋と推察する。広いリビングの南面にはサンルームが設けてあり、リビングは二部屋の間仕切りを取り、広く1室として使っており、リビング北側の部屋との境には暖炉が設けられ、それぞれの部屋に焚き口が設けられている。リビング北側の部屋の並びに作り付けのカップボードを挟んで食堂があり、土間の台所とつながっている。2階は4部屋に分かれている。1階4畳半の畳間を除いて全て板床である。この建物は平成15年まで人文学部教員が宿舎として使用しており、平成16年に独法化に伴う国有財産の整理の対象となり取り壊された。

3-2 経済学部職員宿舎（二）

経済学部職員宿舎（二）の所在町名は水の上町で、重要文化財洞春寺山門と道を挟んで反対側に位置する。所在地名は大字上宇野令字野地である。昭和2年3月に建築され、当時は山口高等商業学校の傭外国人宿舎三号として建てられた。

木造2階建てスレート瓦葺き屋根、板張り壁の洋館建てで暖炉煙突が特徴的である。昭和24年に山口大学経済学部へ移管され、平成18年まで使用されていたが、平成23年9月に取り壊された（写真2）。この建物は綴りをみると、3つめの宿舎を傭外国人宿舎壱号と二号が並ぶ宇岩崎東の土地に作ろうとしたが、敷地が3棟建てるには狭く、余りに近接するため建物の影になり日差しが遮られる可能性もあり、外国人教師が反

対するので、建てるのを断念した内容の文部省宛の文書が残る。新たに建設用地が検討され、字野地に建設された。一号の間取りは明らかではないが、残る敷地図に描かれた2棟の屋根伏せの形が同じなので、間取りも同じであったことが推測される。

仕事を請け負ったのは山口市内の藤原吉太郎で竣工検査は文部省広島出張所所長近延大八が行っている。設計について追ってみると、三号と同じ間取りである二号の間取りについて要望する文書がある。大正15年10月23日付けで学校長鷺尾健治から文部省建築課長文部技師柴垣鼎太郎あてに文書が出されている事から、設計は文部省本省で行われた事がわかる。その内容は「当地ハ夏季ニ於テ暑熱酷敷為メ小ナル洋室ノミニテハ苦痛ヲ感スルコト多ク依テ日本間一室ヲ設ケ建具ヲ開放シテ通風ヲ計度且ツ客室トシテモ日本室ヲ用意スル方便ナル事有之趣ヲ以テ外人教師ヨリ右ノ希望ヲ申出至極最ノ事」と山口の気候を考慮した設計変更を望んでいる。また、同じ日付けで学校長から文部省建築課広島出張所長近延大八あての文書が出され、それには「階下テレスヲ春秋ノ二季天幕ヲ以テサンルームノ代用出来候様御容易（中略）天幕ハ設備費ヲモッテ購入」とあり、建築レベルでサンルームの造作が必要ない事を伝えている。外国人教師の山口という気候のもとでの生活を考慮し、細かな建築的配慮をしていた事がわかる。また、外国人教師側からの要望も強かったことを伺わせる言葉も文書の中に散見される。

図3-1、3-2はこの建物の平面図と立面図であり、建築一件書類に綴られていた青焼き図面をもとにトレースしたものである。道路沿いの敷地に建物は南西面を正面としてたつ。玄関を入ると広間があり2階に上がる階段のほか各部屋に通じる。右手には広い食堂兼居間があり、中央に暖炉がもうけられている。この部屋の北東面にはテラスがもうけられている。食堂兼居間からは台所に、さらに女中室へつながる。1階にはほかに便所、浴室、物置が設けられている。二階は階段をあがった広間から寝室、書斎、日本室に分かれて入ることができる。同じ間取りの二号建設時に文部省建築課技師に依頼した日本間が採用され、三号にも踏襲されたことがわかる。日本室の中には書院、床の間、棚を作るよう指示がされている事は、正式な接客の間である書院を作ろうとした意図が感じられる。綴りの2号、3号の図面を見ると、いずれも方位が書き込まれておらず、どこでも建設が可能なのよとの設計であった事が推察される。

3-3 経済学部職員宿舎（三）

経済学部職員宿舎（三）は昭和3年3月に建築された。所在地は香山町で、瑠璃光寺近くの住宅街にあった。一の坂川沿いの道から水田を挟んで一段高い位置にこの建物を望む景観は筆者に学都山口を想起させた（写真3）。木造2階建てスレート瓦葺

き屋根、縦板張り壁の洋館建てで、他の二つの洋館建てと同じく高い煙突が特徴的であった（図3-3、写真4）。昭和24年に山口大学に移管され、教員宿舎として使用されていたが文理学部1号館と同時期に取り壊された。

建物は台地状で、東南側が擁壁で固められた敷地に南面してたつ（図3-5、3-6）。玄関を入ると二階に上がる階段と右側に位置する居間へ入るドアが目に入る。ゆったりした広間を進むと食堂、料理室へ続く。居間と食堂の境には暖炉が設けられている。広間を左手に進むと女中室、さらに浴室、便所へと続く。料理室は板床で食堂との間には作り付けのカップボードが設置されている。その引出しは料理室、食堂の両方から使えるようになっており、使いやすさへの配慮が伝わる設計となっている。食堂の東面にはテラスが設けられている。二階に上がると廊下状の広間から寝室、書斎、客間へ入ることが出来る。1階も含めてすべて板間あるいはリノリューム貼りであるが、客間は和室のつくりになっており、床と違い棚が設けられている。東側には縁側状の板間が設けられ、北側には張り出しが設けられ、ここにも実用的な生活への配慮が窺える。

図3-4は暖炉正面の意匠と食堂まわりの扉框などの造作を断面で示した図である（写真5）。派手な装飾はないが、細やかな凹凸をつけて落ち着いたインテリアを作ろうとした意図が窺える。

調査を行った時点では人文学部の教員が居住されていた。ヨーロッパ留学の経験もある方で、ゆったりとした空間に満足され、ペンキ塗りなど、細かに手を入れられ、愛着を持って住まわれていることを実感することができたが、冬の寒さには閉口するとの声もあった。

経済学部7号宿舎は昭和3年3月に山口市の施設として建設されたもので、昭和26年に山口市から山口大学への移管がなされた。所在地は白石で、近くに白石中学校がある。木造平屋建ての日本住宅である。未調査のため取り上げていない。平成24年時点では教員宿舎として使用されている。

4. おわりに

平成24年時点ではすでに、洋館建ての官舎は残っていない。その記録を残し、建築的にあるいは都市の歴史の一コマとして、今後役に立つようにとの意図でまとめた。最後にこれまでの調査経緯を述べておきたい。

経済学部官舎4号（山口高等商業学校傭外国人宿舎三号）と文理学部官舎が取り壊されることを聞き、まだ4号にお住まいだった先生の発意でオープンハウスを行った。その際多くの市民の方が訪れ、口々に小さい頃の山口市内に残っていた洋館のことを

語っていた。4号官舎についても、前を通ると、朗々と漢詩を詠う声が聞こえたとの述懐もあり、残してほしいとの声が多かったがかなわなかった。そうした声の多くは自分の歴史の中に都市の景観や音が記憶され、常に反芻していることを意味するものであった。山口の旧市街はこうした歴史的なものが多く継承されている場であり、市民の間では歴史の重層が日常的な感覚としてあるように思われる。学都山口という言葉には山口高等学校、山口高等商業学校、山口師範学校他の高等教育機関が集中し、一時代の町の雰囲気を作っていたという意味が込められている。そのイメージは掲載した図1の地図から、また立面図、写真から容易につかむことができる。このような形として継承するものが今となっては皆無になってしまったということである。

この資料紹介の発端は平成16年当時の学生が洋館建ての官舎を都市の景観要素として取り上げ、卒論にまとめたことである。それに付き添っている中で、宿舎4号にお住まいの先生の厚意で詳細に調べることができ、また、他にもいくつかの洋館建ての官舎があることを知った。独法化で、直接必要のない財産は処分するという、大学の方針で2棟が取り壊されることになり、保存活動も行ったがかなわなかった。一方、大学管財課からは、貴重な資料の閲覧を許していただき、本報告にも掲載することが出来た。

参考引用文献

- 1、山口大学資料、山口高等商業学校大正15年度、昭和2年度、昭和3年度国有財産
綴
- 2、鈴木博之、「現代の建築保存論」、王国社、2001年

表1 官舎と僱外国人教師（大正15年－昭和3年）

所在地	口座名	官舎名称	建て坪数 (延べ坪数)	価格	居住 年月日 自	至	居住者官氏名
山口町大字中河 原字梅本	山口高等商業学校 教師館（二）	教師館（二）	51.083	2567.836	T12.3.6	T15.9.30	僱外国人教師ゲ レン・フレミン グ・ミニス
山口町大字中河 原字梅本	山口高等商業学校 教師館（二）	教師館（二）	51.083	2567.836	S2.4.1	S3.3.31	僱外国人教師武 逸臣
山口町大字上宇 野令字岩崎東	山口高等商業学校 僱外国人官舎（一）	僱外国人官 舎壹号	29.375 (46.208)	7633.55	T15.4.1	S2.3.31	アーサー・エフ・ サイモンド
山口町大字上宇 野令字岩崎東	山口高等商業学校 僱外国人官舎（一）	僱外国人官 舎壹号	29.375 (46.208)	7633.55			僱外国人教師 ウィリアム・ラ ルフ・モーリス
山口町大字上宇 野令字岩崎東	山口高等商業学校 僱外国人官舎（二）	僱外国人官 舎貳号	29.375 (46.208)	7717.92	S2.4.1	S3.3.31	シービー・キン ネス
山口市大字上宇 野令字野地	山口高等商業学校 僱外国人官舎（三）	僱外国人官 舎四号	26.69 (45.06)	7541.835	S3.5.1		僱外国人教師王 僕

表2 山口高等学校・山口高等商業学校官舎から山口大学宿舎への継承

建築当時の名称	口座名 (宿舎名)	棟名称	所在地	現地名	土地 面積㎡	1階 面積㎡	2階 面積㎡	建築年月日	所属 替え前の所属 (所属替えの年月)			
第一教師館			大字上字野令 字堀端					明治二十年 十月		校長鷲尾健治 (昭和2年)		
第二教師館			大字中河原字 梅本					明治三十三年 三月		武逸臣(昭和 2年)		
山口高等商業学校 備外国人官舎老舎			山口町大字上 字野令字岩崎 東					大正十五年 二月十九日		備外国人教師 ウィリアム・モ ラルフ・モー リス		
山口高等商業学校 備外国人官舎二号			山口町大字上 字野令字岩崎 東					昭和二年一 月二十一日		生徒監教授奈 倉次郎		
	文理学部職員 宿舎(一)	文理学部 1号宿舎	山口市大字上 字野令字野田 東923	山口市天花 923-2	457	154.95	108.67	大正14年3 月28日	山口高等学校(昭 和24年5月)			
山口高等商業学校 備外国人官舎三号	経済学部職員 宿舎(二)	経済学部 2号宿舎	山口市大字上 字野令字野地 1762の3	山口市水の 上町6-9	498	153.51	90.9	昭和2年3月 30日	山口経済専門学校 (昭和24年5月)	請負人藤原吉 太郎、竣工検 査文部省建築 課広島出張所 長近延大八	請負金8280円	口座名：山口高等商 業学校備外国人官舎 (二)、官舎名称番号： 山口高等商業学校備 外国人官舎三号
山口高等商業学校 備外国人官舎四号	経済学部職員 宿舎(三)	経済学部 3号宿舎	山口市大字上 字野令字門前 下1706の1	山口市香山 町3-1	583	148.95	89.22	昭和3年3月 31日	山口経済専門学校 (昭和24年5月)	請負人藤原吉 太郎、竣工検 査山口県技手 山本豊彦	請負金9830円	口座名：山口高等商 業学校備外国人官舎 (三)、官舎名称番号： 山口高等商業学校備 外国人官舎四号
	経済学部職員 宿舎六号											
	経済学部職員 宿舎七号	経済学部 7号宿舎	山口市大字上 字野令字五反 田2449の6	山口市白石 2-8-7	288	102.71	—	昭和3年3月 5日	山口市(昭和26年 12月)			



図1 昭和初期の山口高等学校・山口高等商業学校の官舎

縦りに綴じ込まれた地図（最新山口市街図、昭和2年11月発行）に官舎を書き込んだ。
 () 内は山口大学移管後の名称を示す。



図2-1 文理学部職員宿舎(一)平面図



山口大学教員宿舎(天花)梁間断面図	1/100	2004/12/17
-------------------	-------	------------

調査・製図： 山口県立大学生活科学部環境デザイン学科 伊藤則子／徳田良樹

図2-2 文理学部職員宿舎(一)立断面図

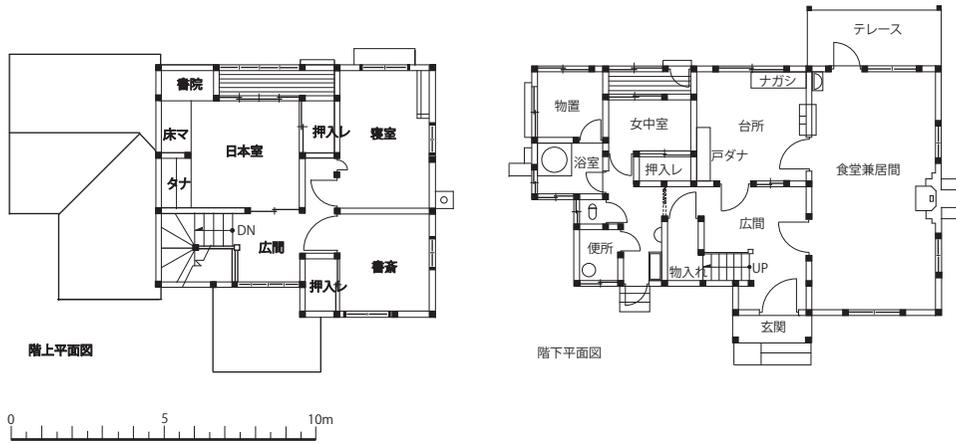


図 3-1 経済学部職員宿舎 (二) 平面図

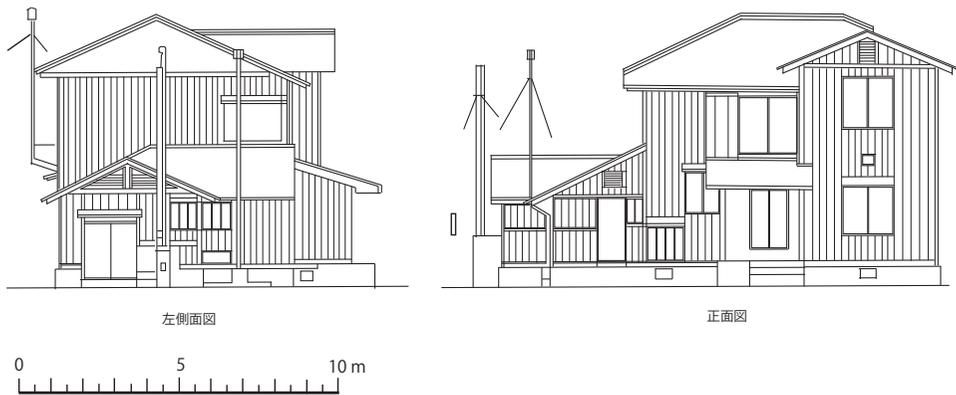


図 3-2 経済学部職員宿舎 (二) 立面図

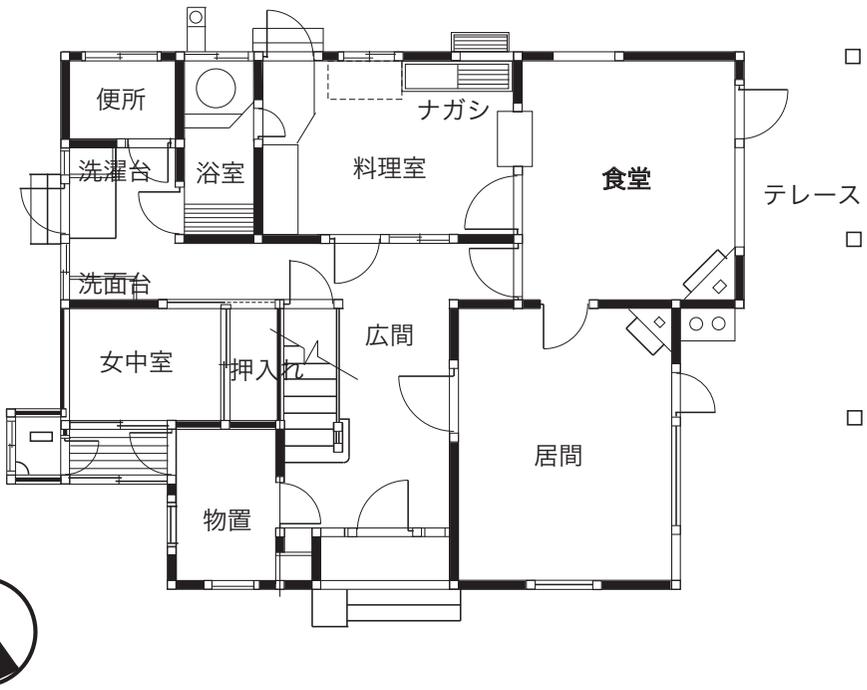
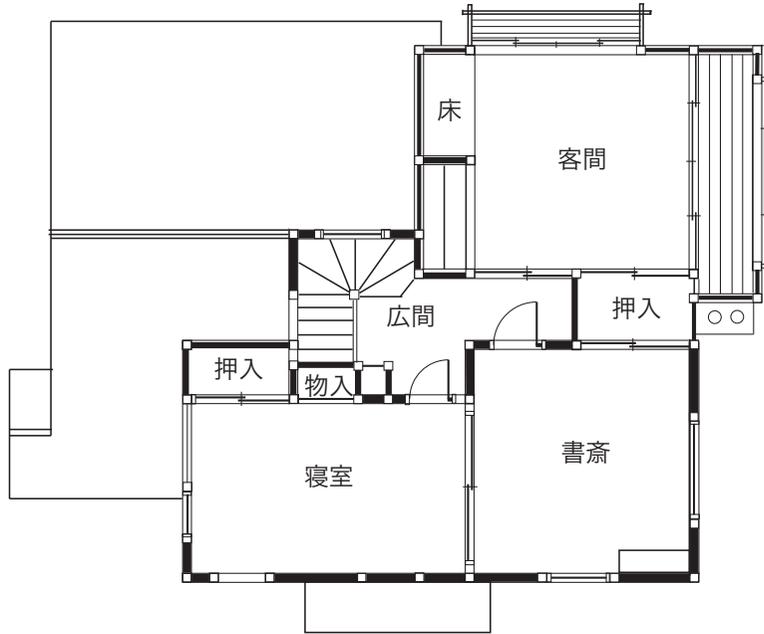
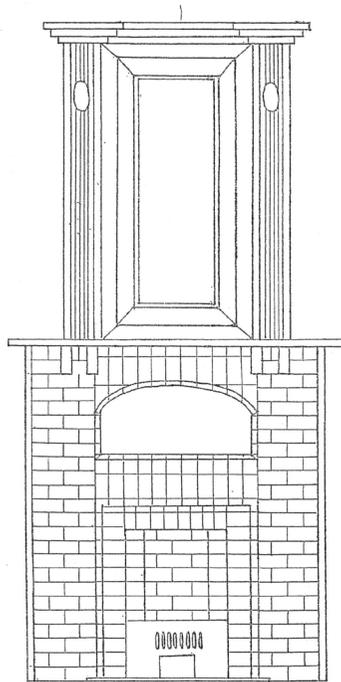
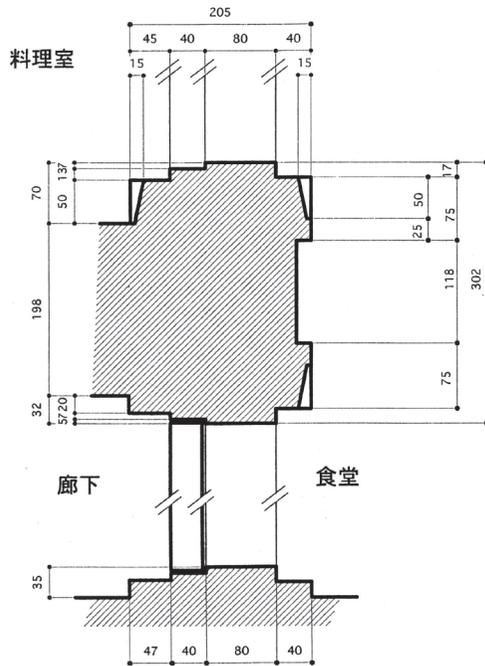


図 3-3 経済学部職員宿舎 (三) 平面図



食堂の暖炉



食堂・料理室境の柱断面

図3-4 暖炉とドア框断

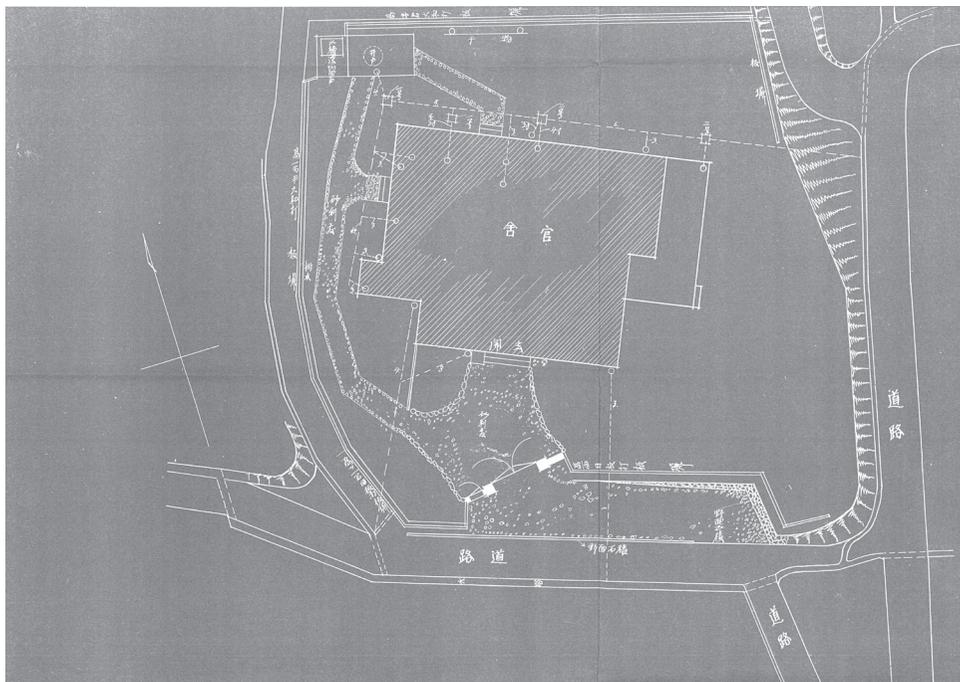


図3-5 経済学部職員宿舎(三)敷地図青焼き

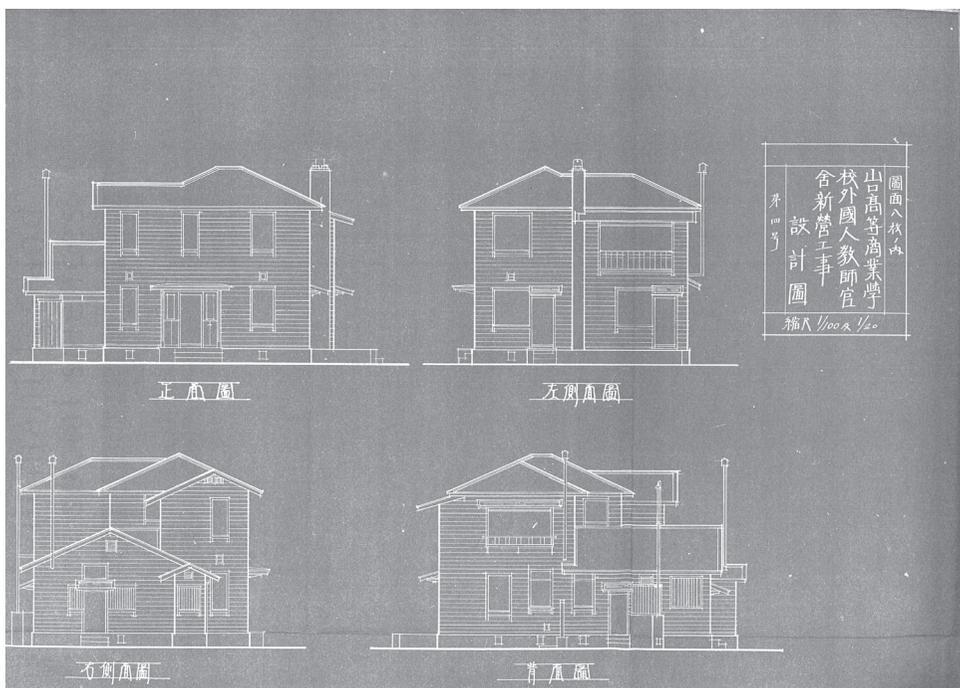


図3-6 経済学部職員宿舎(三)立面図青焼き



写真1 文理学部職員宿舎（一）



写真2 経済学部職員宿舎（二）



写真3 経済学部職員宿舎（三）遠景



写真4 経済学部職員宿舎（三）
正面の門と玄関



写真5 経済学部職員宿舎（三）
居間の暖炉